

標 題 : Olive Oil and Cancer Risk :  
an Update of Epidemiological Findings through 2010  
オリーブ油と癌のリスク : 2010 年までの疫学的発見の更新

---

著 者 : C. Pelucchi , et al. (イタリア ミラノ Murio Negri 薬学研究所 疫学部)

---

掲 載 誌 : Curr. Pharm. Design 17: 805-812 (2011)

---

要 旨 : オリーブ油の摂取は、各種腫瘍など複数の疾患のリスク低下と関連する。  
この論文で、2010 年までに発表されたオリーブ油と癌に関する疫学研究を我々は再検討した。

我々は系統的な文献検索を Medline データベースで行い、関連のある文献の評価後に、オリーブ油摂取と癌リスクに関する元データを提供する 25 研究を我々は収録した。

我々はまた乳癌研究のメタ解析を実施して、オリーブ油の高摂取 対 低摂取でまとめた相対危険度および対応する 95%信頼区間(CI)を計算した。

南欧で実施された複数研究でオリーブ油摂取が、乳癌、消化管癌、および特に上気道消化管癌の有益な指標として報告された。

後者についてアルコールとタバコの使用を調整した後で、オリーブ油摂取の極端な値の間の相対危険度(RR)は 0.3~0.4 であり、主にオリーブ油を摂取する被験者と主にバターを摂取する被験者の間でリスクに 5 倍の違いがあった。

オリーブ油摂取の最高と最低値による乳癌の略式 RR は 0.62(95%CI 0.44-0.88)であった。

つまり、他の添加脂質特に飽和脂肪が多いものよりもオリーブ油を好むことで、上部消化管と呼吸器の腫瘍、乳癌のリスク低下ができ、結直腸癌その他癌のリスク低下の可能性はある。

キーワード : 食事油脂、疫 学、腫 瘍、オリーブ油、総 説、危険因子

---